

こすもす通信



No.127

2015年2月 コスモス会
〒880-0805
宮崎市橋通東2丁目4-6 古賀ビル2F
Tel&Fax 0985-89-0336
090-7458-0926
E-Mail cosmos-ciao@jupiter.ocn.ne.jp
<http://miyazaki-cosmos.jimdo.com/>

2月例会を開きました(2月14日)

初めて参加のお三方を迎え、発達障害の話が中心になりました。

発達障害の診断を受けることは親も子も抵抗があることが少なくないけど、なぜ、自分がうまくいかないのか、悩んでいることが多いので、つまづきの原因がわかり、自分の出来ること、出来ないことを自覚することにより対処方法がみつき、成長につながるという話になりました。まずは子どもの得意なこと、好きな事をやって、自信をつけること、その中でも、不得手なことが出てきたときには、一緒に考えて解決していく方向にもっていきたい。

学校に行きたいという気持ちがあるのに身体がついていけないという話も出ました。殆どの会員さんが経験していることで、子どもたちにとって、安心安全な場所があることが大事。子どもたちにとっての大切なもの、伸ばしたいものを伸ばせるよう、子どもの力を信じて援助してやることが親として出来ることです。

そのために勉強したり、自分の思いを出せる親の会は必要だということから、4月の高垣先生の話は、子どもだけでなく、親自身の自己肯定感を高めるためにも、是非、会員さんのみならず色々な方に聴いていただきたい講演会だという話にもなりました。(文責 落合)

4面に4月11日講演会の案内があります

第19回「全国のつどいin 滋賀」に参加して



K.M

あれからしばらく時間が経ちましたが、つどいで学んだ事、そこから今感じている事を綴って行きたいと思います。

今回のつどいは初めて世話人として参加することになりました。今までとは少し違った期待と緊張感を持っての滋賀入り。開場前に、担当の分科会ごとに分かれて最後の打ち合わせが行われましたが、世話人会の皆さんの笑顔と和やかな雰囲気はいっきに緊張がほどけて行きました。そして各々の思いがいっぱい詰まったつどいが丁寧に手作りされて行く過程に、少しでも身を置けた事がとても嬉しく思えました。

会を終え、足早に会場へ向かうと、全国各地から続々と皆さんが到着され、その中に懐かしいお顔を見つけて、声をかけたり、かけられたり。ワクワクと胸は高鳴り、来てよかったなと思える瞬間です。

オープニングは不登校を経験した3人の若者のバンド「ジェリービーンズ」の歌で始まりました。彼らがステージに登場した途端に、その姿が我が子の姿と重なり、涙が溢れてしかたがありませんでした。その優しく、力強い、歌声と語り。会場全体が「みんな！だいじょうぶだよ！！」とのメッセージで包み込まれたようで、心地よいその時間、涙はずっと止まりませんでした。

そして春日井さんの記念講演。「つながって生きるということ」というテーマのその内容が、参加した第7分科会「さまざまな進路・自立に向かって」で二日間語り合った事に繋がっていき、とても深いものになったのです。

自立がテーマの第7分科会。回を重ねるごとに深まりを感じています。今回は子どもの事を語るうちに、皆がいつの間にか自己を語り、それは自分と親の事だったり、兄弟間の事だったり、夫婦関係の事であったりしました。講演で、春日井さんがお孫さんやご自身の経験を語られながら、人は物心ついた時から、まわりの人々の愛情を受けながらも、さまざまな不安や葛藤を持ち、人々との関係の中でそれらに折り合いを付けながら成長して行く。そして、また成功や失敗を繰り返す過程で、認められたり赦されたりしながらその意味を考えて行く。そこを大人がしっかり応援していきながらそうして「いろいろ課題もある自分だけれど、それが自分だ。まあいいか。」と思えるようになることで自分の存在を認められるようになり、心が社会へと動きだし自己決定しながら自立へつながって行く。それが主体的に生きる、自分の人生の主人公になる上でとても大事な事ではないかというようなことを語られました。

親もまた生きて来た人生の中、消化不良の事も沢山で、子どもの生きづらさ、不登校問題に直面しながら、悩みながら自己を語る事で自己を見つめ直し、自分に折り合いをつけていくことができるのかもしれない。私も7年前、相次いで不登校となった息子達の事で真っ暗な闇の中にいた頃に、宮崎で行われたつどいに参加し、コスモス会と出会い、沢山の出会いと学びを得て、以来それを自分、子どもとすりあわせて行く作業のくり返しました。親もまた主体的に生きる事を、このつどいや親の会とつながることで学ぶことができているのだと実感することができたのです。

そして我が息子達、親元を離れ3年が経とうとしています。以前の私がイメージしていた「自立」にはほど遠いかもしれません。しかしこの3年間、演劇を学ぶ中で、かつてどこか自信のなさそうだった二人が、しっかりと舞台上に立ち、人前に立っています。そんな二人に、今、私はとても元気をもらっています。舞台上に立つという事は台本をしっかり読み込み、自分の役割を理解し、その物語を構成する一員として責任を持って自分を表現しなければなりません。いろいろな人たちとつながって、表現する事を通して、人が生きて聞く姿を学んでいるのだと思います。新しい台本を手にしては、頭を悩ませながらもしっかりと向き合っていく息子達が誇らしくも感じます。「今までに経験した辛い事も必ずこれからの人生に役立って行くよ。そんなあなた達をずっと応援して行くよ。」と遠い空に向かって想いを飛ばしている私も、いつの間にか幼い息子達の写真をまた懐かしんで手に取る事ができるようになっているし、息子達が弾いていたピアノにも触れることができるようになっています。そしていつも感じていた胸の奥の痛みも、そういえば和らいで来ているなど感じるこの頃です。つどいは何か本当の大切なもの、大切にしなければならぬものを学べる場所の様な気がします。時間の許す限り参加して、皆さんと助け合いつながり合って、この問題の事、社会の事、自立の事、語り合えたらいいなと思います。

庭の宿根草が芽吹いて来ました。そんな花々や草木を眺めているとどの命にも平等に育って行く力が備わっているのを感じ、有り難い気持ちになります。一つ一つの大切な命。一人一人が大切にされる世の中になりますように。

ゆったりと穏やかに広がる琵琶湖を眺め、ジェリービーンズの歌声が耳をこだまする中、宮崎でのコンサートが実現できないかしらと、メンバー三人の弾ける姿を思い浮かべながら、温かい想いに包まれての帰途となりました。

1月 親の会例会 3月14日(土) 13時~16時

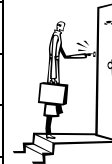
じっくり語り合いましょう。進路のことも気になる時期ですね。

場所 市民プラザ4階小会議室(市役所隣り)

4月例会 4月11日(土) コスモス会20周年記念講演会市民プラザ大会議室

今後の例会等日程

2/21(土)22(日)	ひきこもり支援者実践交流会 in 沖縄
3/14(土)	3月例会 13時 市民プラザ小会議室
4/11(土)	コスモス会20周年記念講演会市民プラザ大会議室
5/9(土)	5月例会&総会 13時 市民プラザ小会議室
6/13(土)	6月例会



訪問(アウトリーチ)
まずはご相談を。
ご希望の方は
090-7458-0926
(亀田) まで。

2・3月スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
2月15日	16	17	18	19	20	21
			相談日 チャオ	発送作業 若者話し合い	チャオ	実践交流会 沖縄
22	23	24	25	26	27	28
実践交流会 沖縄			相談日 チャオ		パン作り	
3月1日	2	3	4	5	6	7
			相談日 チャオ		チャオ	
8	9	10	11	12	13	14
			相談日 チャオ		チャオ	親の会 例会
15	16	17	18	19	20	21
			相談日 チャオ	発送作業 若者話し合い	パン作り	
22	23	24	25	26	27	28
			相談日 チャオ		チャオ	

コスモス会を支えてください。

年会費 3,000円 おもに毎月発行のこすもす通信発行費に充てられます。

内訳(会費・寄付・その他)をお書きください。ATMだと、振り込み料は無料です。

郵便振替口座

口座番号 01780-1-132375

口座名称 コスモス会

コスモス会(不登校・ひきこもりの子どもを持つ親の会)20周年記念講演会

自己肯定感ってなあに？不登校・ひきこもりの子ども・若者の心は？ごいっしょに考えませんか。

「今を生きる - いまボクが大切に思うこと - 」

講師 高垣 忠一郎さん (元立命館大学教授 登校拒否・不登校問題全国連絡会世話人代表)

4月11日(土) 開場午後1時 開会1時半

宮崎市民プラザ4階 大会議室

参加費 無料 先着100名

申し込み先 コスモス会 tel/FAX 0985-89-0336 携帯 090-7458-0926 (亀田)
E-mail cosmos-ciao@jupiter.ocn.ne.jp

ある中学校のPTAの会長さんから「自己肯定感」はどうやって育てたらよいのですか？「褒めてやるのが大事ですか？」という質問がありました。こういう質問はほんとうによくあります。ボクはどんな風に答えたかといいますと概ね次のように答えました。

子育てや教育畑などではよく、「子どものいいところを見つけて認めてやり、褒めてやって自己肯定感を伸ばしましょう」という主旨のことがよく言われているようです。ボクはそれを頭から否定するわけではありません。でも、「褒めて育てればいい」というような簡単なことではありません。事情はもっと複雑です。

確かにいくらがんばっても認めてもらえない、いくらよい成績をとっても褒めてもらえない、そういうことでつらくなり、しんどくなっている子どももいます。そういう子どもには認めてやること、褒めてやることも大事でしょう。でも、とりわけこの競争社会では「褒める」ことには「落とし穴」があることも知っておいてください。皆さんは褒められたらうれしいですか？でもそれと同時に、また褒められるようなことをしなければならぬとプレッシャーを感じることはありませんか？褒められたら、褒められるような自分で「なければならぬ」、褒められるようなことをして先生や親を「喜ばせなければならぬ」というワナにはまってしまう子どももたくさんいるのです。そういう「よい子」が増えていることを知っておいてください。そういう「よい子」のワナにはまり、しんどくなっている子どもたちをたくさん見てきたボクには単純に「褒めて育てればよい」などとはいえないのです。

ボクは思うのですが、いまの子どもたちの置かれている状況をみれば、褒めることよりも、失敗したり、挫折したりしたときに「赦される」経験することの方がはるかに大事です。これは強調しておきたいと思います。赦されたら安心できるのです。競争のなかで駆り立てられて育ってきた子どもたちに一番欠けているのはこの安心です。そして多くの子どもたちの心に膨らんでいるのは「見捨てられる不安」です。ボクは登校拒否の子どもたちが元気になっていくうえで、「自分が自分であって大丈夫」という自己肯定感が心にくらんでくることがとても大事なのだということを語り続けてきました。それが「人生の浮き袋」だという言い方もしてきました。その自己肯定感は「大丈夫」だから、安心なのです。(後略)